

実践地域医療論

責任者・コーディネーター	地域医療薬学科 高橋 寛 教授		
担当講座・学科(分野)	地域医療薬学科、創剤学講座、緩和医療学科、臨床薬剤学講座、高度看護研修センター		
対象学年	6	区分・時間数	講義 19.5 時間
期 間	前期		
単 位 数	1 単位		

・学習方針（講義概要等）

住み慣れた地域で医療が受けられることは国民にとって重要なことである。在宅医療はそのための方法の一つであり、薬剤師は医療チームの一員として在宅医療に積極的に関与しなければならない。在宅医療において、医師をはじめ多職種がどのような役割を果たしているかを学び、薬剤師が在宅医療で果たす役割を理解し実践できる能力を身につける。

・教育成果（アウトカム）

在宅医療にて薬局・薬剤師に求められる役割を理解し、国が進める政策や地域での医療提供体制を学び、在宅医療チームの支援ができる。また、災害医療における薬剤師の役割を学び、災害時地域医療の支援ができる。

・到達目標（SBO）

1. 在宅医療における薬局の役割と在宅患者訪問薬剤管理指導業務について概説できる。
2. 在宅医療に関わる多職種の役割を説明できる。（☆）
3. がん患者の緩和ケアと薬剤師の役割について説明できる。（☆）
4. 在宅医療における服薬支援について具体的な事例をあげて説明できる。（☆）
5. 認知症サポーターについて説明できる。（☆）
6. 災害医療における薬剤師の役割について説明できる。（☆）
7. 医療コミュニケーションスキルについて説明できる。
8. 薬剤経済学の必要性和手法を説明できる。

・講義日程

(矢) 東 201 2-A 講義室、東 202 2-B 講義室

月日	曜日	時限	講座(学科)	担当教員	講義内容
4/13	水	3	地域医療薬学科	高橋 寛 教授	在宅医療において薬剤師がチームに参画し適切に支援できるように、在宅患者のケアと薬剤師の果たす意義と役割について学ぶ。
4/19	火	2	地域医療薬学科	木村 幸博 非常勤講師	在宅医療の実際（医師）在宅医療チームの意義と在宅医療に関わる医師の役割について学ぶ。

月日	曜日	時限	講座(学科)	担当教員	講義内容
4/26	火	2	地域医療薬学科	長井 貴之 非常勤講師	在宅医療の実際（薬剤師） 在宅医療における薬剤師の役割と在宅医療チームへの関わり、在宅患者訪問薬剤管理指導業務の実際について学ぶ。
5/6	金	2	高度看護研修センター	長澤 昌子 氏	在宅医療の実際（看護師） 在宅医療における看護師の役割と在宅医療チームへの関わり、訪問看護の実際について学ぶ。
5/10	火	2	地域医療薬学科	伊藤 美穂子 非常勤講師	在宅医療の実際（栄養士） 在宅医療における訪問栄養士の役割と在宅医療チームへの関わり、在宅訪問栄養食事指導の実際について学ぶ。
5/17	火	2	地域医療薬学科	小原 道子 非常勤講師	在宅医療における薬剤師の役割 在宅医療における服薬支援の実際について学ぶ。
5/17	火	3	地域医療薬学科	小原 道子 非常勤講師	認知症サポーターの役割 認知症について理解を深め、認知症の方に接する時の心構えを学び、認知症サポーターになる。
5/24	火	2	緩和医療学科	木村 祐輔 特任教授	がんの緩和ケア がん患者への緩和ケアとがん緩和ケアチームにおける薬剤師の意義と役割について学ぶ。
5/31	火	2	創剤学講座	松浦 誠 講師	災害医療と薬剤師 東日本大震災での経験をもとに災害医療における薬剤師の役割について学ぶ。
6/7	火	2	創剤学講座	松浦 誠 講師	医療コミュニケーション 医療に必要なコミュニケーションスキルについて理解する。
6/14	火	2	臨床薬剤学講座	工藤 賢三 教授	薬剤経済学-日本の医療と医薬品をめぐる環境変化 日本の医療制度と地域の医療体制について講義し医療体制とその背景、制度・政策等について理解する。
6/21	火	2	臨床薬剤学講座	工藤 賢三 教授	薬剤経済学-ジェネリック医薬品の評価と課題 ジェネリック医薬品の評価と課題について講義しその意義について理解する。

月日	曜日	時限	講座(学科)	担当教員	講義内容
6/22	水	3	臨床薬剤学講座	工藤 賢三 教授	薬剤経済学の手法と応用について講義し、薬剤経済学について理解する。

・教科書・参考書等（教：教科書 参：参考書 推：推薦図書）

	書籍名	著者名	発行所	発行年
参	ファーマシューティカル コミュニケーション：Pharmaceutical Communication	日本ファーマシューティカル コミュニケーション学会	南山堂 (定価 3,000 円)	2007
推	コミュニケーションスキルトレーニング 患者満足度の向上と効果的な診療のために	松村真司 箕輪良行 編集	医学書院 (定価 3,500 円)	2008

・成績評価方法

レポートの提出を行う（合計6回）。プレもしくはポストテストを行い形成的評価に使用する。プレもしくはポストテストの範囲から定期試験を行う。レポート(30%)と定期試験(70%)から総合的に評価を行う。

・予習復習のポイント

復習としては、講義で用いた配布資料や演習問題をまとめること。
授業に対する事前学修（予習・復習）の時間は最低 30 分を要する。

・授業に使用する機器・器具と使用目的

使用区分	機器・器具の名称	台数	使用目的
講義	パソコン (Apple MacBookPro)	1	スライド投影のため
講義	パソコン (パナソニック CF-NX3)	1	スライド投影のため

セルフメディケーション特論

責任者・コーディネーター	地域医療薬学科 高橋 寛 教授		
担当講座・学科(分野)	地域医療薬学科、臨床医化学講座、分子細胞薬理学講座、臨床薬剤学講座、衛生化学講座		
対象学年	6	区分・時間数	講義 15 時間
期 間	前期		
単 位 数	1 単位		

・学習方針（講義概要等）

薬剤師が、「地域住民による主体的な健康の維持・増進を積極的に支援する」ことに関わることが強く求められている。かかりつけ薬剤師・薬局として、地域住民からの要指導医薬品等の使用に関する相談及び健康の維持・増進に関する相談に適切に対応し、必要に応じて医療機関へ受診勧奨が行える実践的能力を学ぶ。

・教育成果（アウトカム）

要指導医薬品等または健康食品等に関する相談を受けた際に、その特性を踏まえた上で専門的知識に基づきわかりやすく説明ができる。さらに、来局者が訴える症状に応じて、適切な対応と医療機関への受診勧奨の必要性を説明できる。

・到達目標（SBO）

1. 症状の把握と重症度に応じた適切な対応（トリアージ）の手順について説明できる。（☆）
2. 薬局の来局者が呈する症状とその背景にある疾患の関係を説明できる。（☆）
3. 薬局におけるセルフメディケーション支援に関する薬剤師の役割を説明できる。（☆）
4. 代表的な一般用医薬品の使用目的や特徴を列挙できる。
5. 代表的なサプリメントや漢方薬の使用目的や特徴を列挙できる。
6. 一般用医薬品の添付文書を活用して購入者にわかりやすく説明ができる。
7. 来局者に医療機関の受診の必要性を的確に説明できる。（☆）

・講義日程

(矢) 東 201 2-A 講義室、東 202 2-B 講義室

月日	曜日	時限	講座(学科)	担当教員	講義内容
4/12	火	2	臨床医化学講座	那谷 耕司 教授	全身状態の評価とトリアージの実際、頭痛、発熱
4/20	水	3	臨床医化学講座	那谷 耕司 教授	咽頭痛、咳・痰、腹痛、腰痛
4/27	水	3	分子細胞薬理学講座	弘瀬 雅教 教授	下痢、便秘、倦怠感・疲労感
5/12	木	4	地域医療薬学科	武政 文彦 非常勤講師	一般用医薬品 1
5/19	木	4	地域医療薬学科	武政 文彦 非常勤講師	一般用医薬品 2
5/26	木	4	地域医療薬学科	武政 文彦 非常勤講師	サプリメント、漢方など

月日	曜日	時限	講座(学科)	担当教員	講義内容
6/1	水	3	衛生化学講座	杉山 晶規 准教授	健康食品の有効性と安全性
6/8	水	3	臨床薬剤学講座	工藤 賢三 教授	添付文書の見方と応用
6/15	水	3	臨床薬剤学講座	工藤 賢三 教授	セルフメディケーションと医薬品情報
6/21	火	1	地域医療薬学科	高橋 寛 教授	総まとめ

・教科書・参考書等（教：教科書 参：参考書 推：推薦図書）

	書籍名	著者名	発行所	発行年
教	薬剤師のトリアージ実践ガイド	佐仲 雅樹	丸善出版 (定価 3,200 円)	2012
教	病態知識を基礎とした一般用医薬品販売ハンドブッケーセルフメディケーション・トリアージ	望月真弓、武政文彦／監修	じほう (定価 3,800 円)	2011
参	知っておきたい一般用医薬品 第2版	日本薬学会 編	東京化学同人 (定価 2,800 円)	2008
推	アルゴリズムを考える 薬剤師の臨床判断	木内 祐二 編	南山堂 (定価 2,800 円)	2015

・成績評価方法

レポートの提出を行う（合計3回）。プレもしくはポストテストを行い形成的評価に使用する。プレもしくはポストテストの範囲から定期試験を行う。レポート(20%)と定期試験(80%)から総合的に評価を行う。

・予習復習のポイント

予習としては、予定されている授業内容を予め確認しておくこと。
 復習としては、講義で用いた配布資料や演習問題をまとめること。
 授業に対する事前学修（予習・復習）の時間は最低 30 分を要する。

・授業に使用する機器・器具と使用目的

使用区分	機器・器具の名称	台数	使用目的
講義	パソコン（パナソニック CF-W9JWECDS）	1	スライド投影
講義	iPad（Apple MC906J/A）	1	講義資料の閲覧

実践副作用学特論

責任者・コーディネーター	臨床薬剤学講座 工藤 賢三 教授		
担当講座・学科(分野)	臨床薬剤学講座、衛生化学講座、細胞病態生物学講座、生体防御学講座、薬物代謝動態学講座、神経科学講座、薬剤治療学講座		
対象学年	6	区分・時間数	講義 12 時間
期間	前期		
単位数	1 単位		

・学習方針（講義概要等）

薬剤師には医薬品使用における有効性と安全性を確保することが求められている。臨床で遭遇する副作用は治療用量域で発生する有害で意図しない反応で、症状は全身に及び、悪心からアナフィラキシーショックなど生命の危機に結びつくようなものまで多様である。副作用の多くは、用量関連性のものと非用量関連性のものに分けられ、用量関連性の副作用は予測可能であるが非用量関連性の副作用は予測が困難でありかつ比較的まれである。実践副作用学特論では、医薬品の使用により発生する実際の副作用疾患を学習することにより、副作用の早期発見及び早期対応を可能とし、重篤化を予防し医薬品使用の安全性向上に資することを目的とする。

・教育成果（アウトカム）

代表的な重篤副作用疾患の早期発見（初期症状）と早期対応のポイント、原因となる医薬品、副作用の概要（症状、検査所見）、対処方法、典型的症例等について理解することで、医薬品の使用による重篤な副作用を回避することができる実践的能力の基礎を身に付けられる。

・到達目標（SBO）

1. 重篤副作用疾患別マニュアルを説明できる。（☆）
2. 副作用モニタリングと育薬について概説できる。（☆）
3. 消化器及び肝臓における代表的な重篤副作用疾患を説明できる。（☆）
4. 皮膚、過敏症及び癌における代表的な重篤副作用疾患を説明できる。（☆）
5. 精神及び神経・筋骨格系における代表的な重篤副作用疾患を説明できる。（☆）
6. 腎臓及び泌尿器における代表的な重篤副作用疾患を説明できる。（☆）
7. 血液における代表的な重篤副作用疾患を説明できる。（☆）
8. 呼吸器及び心臓・循環器における代表的な重篤副作用疾患を説明できる。（☆）
9. 代謝・内分泌、骨及び卵巣における代表的な重篤副作用疾患を説明できる。（☆）
10. 口腔及び感覚器における代表的な重篤副作用疾患を説明できる。（☆）

・講義日程

（矢）東 201 2-A 講義室、東 202 2-B 講義室

月日	曜日	時限	講座(学科)	担当教員	講義内容
4/15	金	1	臨床薬剤学講座	工藤 賢三 教授	重篤副作用疾患別マニュアルと副作用モニタリング、育薬について学ぶ。口腔及び感覚器における代表的な重篤副作用疾患について学ぶ。

月日	曜日	時限	講座(学科)	担当教員	講義内容
4/22	金	1	薬物代謝動態学講座	小澤 正吾 教授	医薬品の投与に起因する、すなわち薬剤性の肝・消化管障害について学ぶ。薬剤性肝障害、薬剤性の下痢、薬剤性の急性膵炎、麻痺性イレウス、消化性潰瘍、偽膜性大腸炎の原因医薬品と症状、対応法について学ぶ。
4/28	木	1	臨床薬剤学講座	佐藤 淳也 講師	医薬品の副作用として発症する過敏症、皮膚疾患及びがんの化学療法時の副作用について学ぶ。
5/6	金	1	神経科学講座	駒野 宏人 教授	精神、神経・筋骨格系の医薬品のもたらす代表的な副作用として、アカシジア、セロトニン症候群、悪性症候群、横紋筋融解症、薬剤性パーキンソン症候群をとりあげ、その原因となる医薬品とその症状、対応法について学ぶ。
5/13	金	1	衛生化学講座	名取 泰博 教授	腎・泌尿器系に現れる代表的な副作用として急性腎不全、出血性膀胱炎、尿閉・排尿困難について学ぶ。
5/20	金	1	生体防御学講座	大橋 綾子 教授	医薬品の副作用として発症する、主要な血液疾患（血球と凝固の異常に関する疾患）のうち、再生不良性貧血、無顆粒球症、血栓性血小板減少性紫斑病(TTP)、出血傾向をとりあげ、その原因となる医薬品とその症状、対応法について学ぶ。
5/27	金	1	薬剤治療学講座	三部 篤 教授	呼吸器及び循環器領域治療薬における代表的な重篤副作用の解説
6/3	金	1	薬剤治療学講座	三部 篤 教授	代謝・内分泌疾患治療薬における代表的な重篤副作用の解説

・教科書・参考書等（教：教科書 参：参考書 推：推薦図書）

	書籍名	著者名	発行所	発行年
教	重篤副作用疾患別対応マニュアル	厚生労働省	医薬品医療機器総合機構 ホームページよりPDFで ダウンロード可	
参	病気がみえる vol.7 脳・神経	医療情報科学研究所編集	メディックメディア (定価 3,800 円)	2011
参	薬剤師のための医薬品副作用入門	増原 慶壮、大澤 友二	じほう (定価 5,200 円)	2011

・成績評価方法

定期試験（100%）により評価する。

・予習復習のポイント

予習としては、予定されている授業内容を予め確認しておくこと。
復習としては、講義で用いた配布資料や演習問題をまとめること。
授業に対する事前学習(予習・復習)の時間は最低 30 分を要する。

・授業に使用する機器・器具と使用目的

使用区分	機器・器具の名称	台数	使用目的
講義	パソコン（パナソニック CF-W9JWECDS）	1	スライド投影のため

総合講義

責任者・コーディネーター	薬剤治療学講座 三部 篤 教授、衛生化学講座 杉山 晶規 准教授		
担当講座・学科(分野)	構造生物薬学講座、生体防御学講座、衛生化学講座、細胞病態生物学講座、分子細胞薬理学講座、創剤学講座、分子生物薬学講座、臨床医化学講座、機能生化学講座、薬剤治療学講座、臨床薬剤学講座、有機合成化学講座、微生物薬品創薬学講座、天然物化学講座、薬物代謝動態学講座、神経科学講座、地域医療薬学科		
対象学年	6	区分・時間数	講義 43.5 時間
期 間	通期		
単 位 数	3 単位		

・学習方針（講義概要等）

総合講義は、6年間の薬学教育の集大成を目指して、薬剤師法に規定される「薬剤師として必要な知識及び技能」の再確認を行う。総合講義では、1）基礎薬学分野（物質の構造と性質、天然医薬資源、生化学、細胞生物学、微生物学及び生体防御学）、2）医療薬学分野（薬理学、薬物治療、病態、薬物動態学、創剤学）、3）衛生薬学分野（健康と環境）、4）実務分野（実践的な薬剤師業務に関する事）に関して各担当講座が分担して講義を行い、薬剤師及び薬学関連分野での専門職において必要とされる知識を復習する。授業内容は各講座間で効率よく配慮し、最終学年の限られた時間を有効に活用して薬学教育の総まとめとする。

・教育成果（アウトカム）

6年間で行なわれた講義で学習した基礎薬学分野（物質の構造と性質、天然医薬資源、生化学、細胞生物学、微生物学及び生体防御学）、医療薬学分野（薬理学、薬物治療、病態、薬物動態学、創剤学）、衛生薬学分野（健康と環境）、実務分野（実践的な薬剤師業務に関する事）に関する重要事項を復習し、演習を活用しながら知識の整理統合を図る。

・到達目標（SBO）

基礎薬学分野

物理、化学、生物系の薬学専門関連科目の SBOs

医療薬学分野

薬理、治療学、医療薬学、創剤学、薬物動態系の薬学専門科目の SBOs

衛生薬学分野

衛生系の薬学専門科目の SBOs

実務分野

実務系薬学専門科目の SBOs

・ 講義日程

(矢) 東 201 2-A 講義室、東 202 2-B 講義室

月日	曜日	時限	講座(学科)	担当教員	講義内容
4/14	木	2	機能生化学講座	中西 真弓 教授	生化学
4/19	火	1	微生物薬品創薬学講座	奥 裕介 助教	微生物・感染症
4/20	水	1	生体防御学講座	大橋 綾子 教授	生体防御
4/21	木	1	分子細胞薬理学講座	弘瀬 雅教 教授	薬理（循環器、呼吸器、消化器、代謝、他）
4/27	水	1	細胞病態生物学講座	奈良場 博昭 准教授	薬理（内分泌、生殖器、血液、腎臓、アレルギー、炎症、他）
5/9	月	1	薬剤治療学講座	三部 篤 教授	病態治療（消化器系疾患、呼吸器系疾患、他）
5/11	水	1	臨床医化学講座	那谷 耕司 教授	病態治療（循環器系疾患、感覚器疾患、他）
5/16	月	1	分子生物薬学講座	藤本 康之 准教授	分析化学
5/19	木	2	構造生物薬学講座	野中 孝昌 教授	物理化学
5/23	月	1	薬物代謝動態学講座	小澤 正吾 教授	薬物動態、医薬情報科学
5/24	火	1	創剤学講座	佐塚 泰之 教授	創剤学
5/30	月	1	有機合成化学講座	河野 富一 教授	有機化学
6/1	水	2	天然物化学講座	林 宏明 准教授	生薬・漢方
6/2	木	1	天然物化学講座	藤井 勲 教授	天然物
6/6	月	1	衛生化学講座	名取 泰博 教授	保健衛生、環境衛生
6/9	木	1	衛生化学講座	杉山 晶規 准教授	食品衛生、毒性
6/13	月	1	生体防御学講座	大橋 綾子 教授	生命倫理、ヒューマニズム
6/16	木	1	地域医療薬学科	高橋 寛 教授	薬局業務
6/20	月	1	臨床薬剤学講座	佐藤 淳也 講師	病院業務
6/23	木	1	創剤学講座	松浦 誠 講師	薬剤師業務
9/2	金	1	細胞病態生物学講座	奈良場 博昭 准教授	機能形態
9/6	火	1	神経科学講座	駒野 宏人 教授	薬理（神経、他）

月日	曜日	時限	講座(学科)	担当教員	講義内容
9/8	木	2	微生物薬品創薬学講座	西谷 直之 講師	病態（感染症、悪性腫瘍）
9/9	金	2	臨床医化学講座	大橋 一晶 准教授	病態治療（内分泌系疾患、他）
9/15	木	1	薬物代謝動態学講座	幅野 涉 准教授	薬物動態
9/26	月	1	臨床薬剤学講座	工藤 賢三 教授	法規・制度
9/27	火	1	臨床薬剤学講座	富田 隆 准教授	病院業務
10/3	月	1	生体防御学講座	白石 博久 講師	生体防御
10/18	火	1	有機合成化学講座	田村 理 准教授	有機化学

・成績評価方法

総合試験を複数回行い、その総合点で評価する。（試験 100%）

・予習復習のポイント

予定されている授業内容を予め確認し、予習しておくこと。
復習としては、講義で用いた配布資料や演習問題・教科書・参考書で知識を整理しまとめておくこと。
その他、講義担当の先生から指示があった場合には、その指示に従って予習・復習をしてください。
授業に対する事前学修（予習・復習）の時間は最低 30 分を要する。
野中担当分の講義は、TBL 形式で実施する。

・授業に使用する機器・器具と使用目的

使用区分	機器・器具の名称	台数	使用目的
講義	パソコン（アップル、MA896J/A Education）	1	スライドの投影のため
講義	iPad（Apple MC906J/A）	1	講義資料の閲覧